



Q1

小論文って何ですか？



A1

小論文とは、課題に対して自分の思ったことや考えたこと、意見を書いた文章です。そこで気をつけなければならないことは大きく3つです。

1. テーマ理解 → 課題を理解しているか。

2. 構成・展開／文章表現・表記 → 読み手にわかりやすいように書けているか。

①構成・展開…読み手に伝わりやすい「流れ」で書けているか。

②文章表現・表記…誤字脱字などがなく、簡潔でわかりやすく表現されているか。

3. 知識／論理 → 自分の考えを持ち、読み手を納得させる意見を書けているか。

①知識…正しく詳しい知識を書けているか。

②論理…「根拠」と「視野」のある意見、すなわち説得力のある意見（客観性）を道筋を立てて書けているか。

この3つがそろって、その小論文は評価されることになります。

小論文の評価で大事な観点は、「客観性」（＝誰もが納得すること）です。自分の主張が読み手に伝わらなければ意味がありません。読み手に自分の考えを伝えるために、「伝え方」を意識することはとても大切です。

### おさらいポイント

- ・ 課題（テーマ）を理解すること
- ・ 伝わりやすい構成で、適切な表現で書くこと
- ・ 正しく詳しい知識で、説得力のある意見を書くこと

### 「客観性」のある文章を書くコツ

1 「なぜ・どうして」を追究する。

なぜそうなったのか、なぜそれが必要なのか。

2 「根拠や提案」は1つではなく複数挙げていく。

問題の背景は1つではない。提案には具体的なものと抽象的なものがある。

3 「メリットとデメリット」を踏まえる。

物事の多くは「よしあし」がある。どちらかだけを一方的に述べるのでは不十分である。

4 「(Yes・Noや二択の際) 自分が選ばなかった側」も意識する。

自分とは反対の立場にいる人たちの状況や考え方を把握し、自分の意見も含めて両方の考えを示す。

## Q2

# 作文と小論文の違いは何ですか？



A2

小論文を始める際の疑問に多いのが、「作文と小論文の違い」についてです。一般的には、作文は自分の体験や一般的な事実から学んだことや感想を書くもので、小論文は課題に対する意見を書くものだという表現で説明されます。ところが、感想と意見というのは境界が曖昧で、どこまでが感想で、どこからが意見なのかは判別しにくく、自分でも意識して書き分けることは難しいでしょう。

例えば「いじめ」について文章を書く時に、作文では「いじめはよくないと思います」でも成立しますが、小論文は感想で終わってしまっただけではいけません。「いじめがよくない」のであるならば、それをどうするのか（例えば「～という方法でいじめをなくす必要があります」）まで書く必要があります。

しかし、ただ自分の考えを書けばよいということでもありません。小論文にとって必要不可欠なのは、「**自分の主張を明確な論理で展開すること**」です。自分の思っていることを相手に理解させるためには、なぜそのような主張が出てきたのかの説明が避けられません。その説明の筋道こそが「**論理**」なのです。

小論文には、すべての人を納得させるような普遍的な主張が必要と思われがちですが、実際のところ、小論文の主張に普遍性はありません。なぜなら、考え・主張というものには、これが必ず当てはまるというような正解は存在しないからです。しかし、だからといってひとりよがりの文章でよいというわけではありません。そこで、小論文には、ひとりよがりにならないための「**ある程度の説得力**」が求められています。この「ある程度の説得力」こそが「**客観性**」と呼ばれるものであり、その「客観性」を獲得するために、自分の主張を支える**論理**が必要になるわけです。

たとえ主張そのものに全面的に賛成はできなくても、その主張の論理がきちんと書かれている小論文は、一般的にそうであると信じられている「常識」が並べられているだけの文章よりも、評価が高いといえるでしょう。

### おさらいポイント

- ・ 作文は、自分の感じたことを書いたもの
- ・ 小論文は、自分の意見を論理的、客観的に書いたもの

Q3

小論文の出題形式について教えてください。



A3

小論文の出題形式は大きく分けて、3つに分類されます。

1. 課題提示型
2. 文章読解型
3. 資料読み取り型

**課題提示型**では、「～について述べよ」と問われる場合や、短い文章が添えられる場合、また複数の語句がキーワードとして与えられる場合（例：「時間」「空間」「仲間」という3つの語を用いて、今日の子どもたちの遊びをめぐる状況と課題について、具体的事例を挙げて考えを述べよ。）などがあります。いずれの場合も、長い文章や資料が提示されないため、自分の経験や持っている知識から記述することになります。

※この『基礎小論文 ワーク&添削②』は、課題提示型に該当します。

**文章読解型**では、新聞のコラムや書籍などから抜粋された文章を読み、文章の要約と自分の意見の論述が求められます。「要約せよ」という設問がない場合もありますが、課題文を読み込み、筆者の意見を読み取るうえでは、要約の作業は不可欠となります。筆者の考えに対する賛成意見と反対意見の両方を考え、自分の意見の根拠を挙げていくことが必要です。

**資料読み取り型**では、グラフや表が与えられる場合や、写真やイラストが与えられる場合などがあります。複数の資料が提示される場合は、それらの資料にどのようなつながりがあるかも考える必要があります。与えられた資料が示していることを正確に読み取り、社会的な要因や背景を踏まえ、自分の意見を論述することが求められます。

ほかにも、文章と資料が組み合わせられた場合、課題文が英文で書かれている場合など、小論文の出題形式は多種多様です。

### おさらいポイント

**課題提示型**…課題が与えられ、それについて自分の意見を述べる形式  
**文章読解型**…与えられた文章を要約し、それに基づいて論述する形式  
**資料読み取り型**…グラフや写真、イラストに基づいて論述する形式

# Q4

## 小論文の出題傾向について教えてください。



### A4

小論文の出題傾向は大きく分けて、2つのパターンに分類されます。

#### 1. 専門分野知識重視型

#### 2. 一般的テーマ型

**専門分野知識重視型**の小論文は、大学でいえば学部や学科など、その人が希望する分野に対する知識をどれだけ持っているのか、その分野に関する適性がどれだけあるのかを見るためのものです。法学部であれば、憲法の解釈、人権問題、少年犯罪などの社会的な問題に関する出題がなされます。経済学部であれば、インフレーションやデフレーションといった用語の確認問題から不況下における日本経済のあり方など、経済的なテーマに密接した問題が課題となります。

これらの対策としては、志望するジャンルに関する十分な知識を蓄えることが何よりも求められます。その分野に関する一般的な知識に加え、その分野に関心がある人たちでも「なるほど」と納得するような見識まで示すことができればということはありません。ただし、そこまで到達するためには、自分自身の興味関心とその専門分野がマッチしている必要があります。

**一般的テーマ型**の小論文は、専門分野を問わず、高校生であれば誰でも知っているであろう、またすべての高校生に考えてほしい問題が課題となります。そこでは社会的な時事問題が扱われることもあります。多くの場合その根底にあるのは、社会常識や倫理観など、普遍的なテーマです。

そして、この一般的テーマ型の小論文のほうが、専門分野知識重視型の小論文よりも奥が深いという一面もあります。なぜならば、特に専門的な知識を必要とせず、誰もがその場でいきなり書くことのできるものであるがゆえに、このような小論文の評価は単なる知識の有無では決まらず、その課題に対する考え方にオリジナリティ（個性）を加えることができているかが鍵となるからです。

### おさらいポイント

専門分野知識重視型…志望分野に関する知識が問われるもの  
一般的テーマ型…世間一般を対象とした内容が問われるもの

# Q5

## どのように文章を構成したらよいですか？



A5

小論文の構成は、主に次の2つのパターンが一般的です。

### 1. 社会で問題となっている話題について考える場合（原因追究型）

- ①現状…今、何が起きているのか ➡ 「知っていること」を書く。
- ②原因…なぜ・どうして ➡ 「多面的」に考える。
- ③提案（解決策・改善策）…どうやって・どのようにして ➡ 「具体的」な提案をする。
- ④結論（まとめ） ➡ 「心構え」のような内容で「抽象的」にまとめる。

社会で問題となっている話題に関しては、私たちがその問題にどのように対応していくのかという解決策・改善策を提案することが求められます。解決策・改善策を考える前に、まずその問題の現状を把握し、問題が生じた原因を明らかにすることが必要です。原因を明らかにすることによって、解決策・改善策の検討ができるため、このような課題で最も大切な部分は「原因」であるといえるでしょう。

※『基礎小論文 ワーク&添削②』では「環境問題」「食の問題」「少子高齢社会」がこれに該当します。

### 2. 最近話題になっている事柄の「これから」を考える場合（問題提起型）

- ①現状…今、何が起きているのか ➡ 「知っていること」を書く。
- ②問題提起…何が問題か ➡ 「とくに問題だと思うこと」を絞り込む。
- ③提案（解決策・改善策）…どうやって・どのようにして ➡ 「具体的」な提案をする。
- ④結論（まとめ） ➡ 「心構え」のような内容で「抽象的」にまとめる。

社会情勢の変化から、近年新しく登場した話題に関する小論文問題が出題されるケースがあります。ソーシャルメディアの発達や、近年では成人年齢の引き下げなどがこれに該当します。このような話題に対しては、その登場によって私たちの生活にどのような影響が生じるのか、また、その中でも自分がどの要素を重視しているのかを理由とともに明らかにすることによって、私たちが対応すべき問題が見えてきます。

※『基礎小論文 ワーク&添削②』では「情報社会」「福祉」「子ども論」がこれに該当します。

#### おさらいポイント

原因追究型…与えられた問題の原因から解決策を導くもの  
問題提起型…与えられた話題が抱える問題を提起するもの

#### 小論文の作業（実際に作成するときの手順）

- 1 設問を読み、「何」が問われているか、「何」を書けばよいかを把握する。
- 2 自分の意見を固め、構成（流れ）を考えるために、「構成メモ」を作る。
- 3 実際に書きながら、字数制限があるものは字数も意識しながら、推敲をする。

Q6

## 小論文を書くための資料はどのように集めたらよいですか？



A6

文章を書いていくうえでは、自分が興味関心のある分野のことはもちろん、世の中のことでも知らなければなりません。そこで、次の3つの方法をお勧めします。

### 1. 新聞記事の収集

近年は新聞を購読しない世帯が増え、高校生に限らず新聞を読む人は減っています。しかし、小論文を書くための資料集めとしては、新聞を活用することをお勧めします。まず、自分の興味のある分野の記事（大学でいえば希望する学部学科や、あるいは将来の職業に関する分野の記事）をファイリングしていきます。その際、見出しを見て、興味をひく記事があったらひとまず保管するとよいでしょう。そして、記事がある程度たまったら、自分でファイルした記事を読み、その内容を理解できるかどうか分類します。この時、難しく理解できなかつたり、面白くないと思ったりした記事は捨ててしまいましょう。面白かった記事については、大事に保管してください。このようにして残ったものが、自分にとって大切な情報となります。

### 2. インターネットによる情報収集

インターネットでニュースを閲覧する、気になったキーワードを検索するなど、インターネットを活用することで膨大な量の情報を得ることができます。ただし、インターネットの情報には、間違ったものや不正確なものも含まれています。国や自治体などの公的機関、新聞社など、信頼できるWebサイトの情報だけを活用するようにしましょう。信頼できる情報で、かつ面白いと思う記事については、プリントアウトしてファイリングしておきます。

### 3. 書籍の活用

新聞などで興味をひいた記事と同じテーマを扱っている本を、書店や図書館などで探して読んでみましょう。本を読む時間を確保することはなかなか難しいかと思いますが、テーマについての知識が深まるだけでなく、面接試験で「最近読んだ本」について聞かれた際に答えることができるので、1冊だけでも読むことをお勧めします。そして、読み終わったら内容を要約し、要約したメモはファイリングしておきます。要約は、課題文型小論文で要点を読み取る訓練にもなり、小論文対策として大変有効です。

#### おさらいポイント

- ・資料を集めるときは、自分の興味関心に従って集める
- ・「面白い」と思うものだけを残す

# Q7

## どのように評価されるのですか？



A7

評価基準は小論文を課した学校によって様々ですが、共通する主な評価基準は次のようにまとめられます。

### 1. 「意見」以外に関する評価の観点

- ①構成・展開…（指示がある場合）設問の指示通りの構成で展開できているか。  
…（指示がない場合）スムーズな構成を自分で組み立てられているか。
- ②文章…正しい日本語で書いているか。

### 2. 「意見」に関する評価の観点

- ①知識…課題に関する正しい知識を示しているか。
- ②論理…「意見」に説得力があるか。

「意見」以外に関しては、多くの場合、できていれば何点、できていなければ減点、という採点がなされます。文章を書く時の基本的なルールを守り、読み手にわかりやすい文章で書かれているかどうかで評価されます。

「意見」に関しては、2つの方法が考えられます。「レポート課題」など、事前に出題される問題については、調べることがいくらかでも可能なので、「知識」は入っていて当たり前とされ、そこにどれだけ深い考察や独自の提案を盛り込むことができるかが評価されます。

一方で、試験会場で初めて発表されるなど、事前に出題内容が明かされていない問題については、「知識」は課題文で補足される場合もあるため、課題文以上の「知識」があれば有利ではありますが、ないからといって即、不合格という試験はほとんどありません。

適切な文章や、正しい「知識」を示すことも大切ではありますが、評価の最大のポイントは「論理」の組み立て方です。何よりも、説得力のある自分の意見を示すことが大切です。「自分の意見とその意見の根拠」が述べられていることが、採点の際に最も重視されるポイントなのです。

実際の小論文試験の採点は、通常複数の採点者によって行われますので、採点者による偏りについては心配する必要はありません。

### おさらいポイント

最も重視されるのは「自分の意見とその意見の根拠」が論理的に示されているか